

まぼろし

佐野智子

あなたはわたし
わたしはあなた

そのひみつを知っていた遠く幼い日
一面に広がるれんげの花を冠に
川風に吹かれながら 世界を逆さまに見た日の茜色の空
すべてが祝福に包まれていました

ある日 ふいに夜空に上がる花火のように 遠く甘い記憶の歌
声が運んできた

思いがけない少女のわたしとの邂逅は
れんげ畑に置き忘れたままの
忘れかけていた世界のひみつを もういちど思い出させてくれま
した

あなたはわたし
わたしはあなた

愛としかいいようのない光を
与えるだけ与え
捧げるだけ捧げ
静かに旅立った心優しき魂の人よ

今 わたしの内にあの時のれんげの花が咲いています

蜜蜂と戯れた春の田に咲く　あの頃の景色はもうないけれど
ないということは　たしかにあるということ
瞳を閉じたら蘇る

柔らかな茜空のようなれんげの花は
どんな日にも、いつも心の中で優しく香り　揺れていた
かなしみの雫を受けて　きらきらと輝いていた
わたしの内に　ずっとたしかに咲いていた

思い出そう

光の中にいたあなたとわたし
あのれんげの花を胸に
共に歩こう
もういちど
もういちど